

# 序

救急・当直で遭遇した患者に外固定が必要なとき、外科系医師が不在のために研修医や内科系医師だけで対応せざるを得ない場面は少なくないと思います。その際の役に立つように、本書を作成しました。巻頭の「外傷別の外固定早見表」(p.6)で適応する外固定を確認し、該当ページを参照して頑張ってください。なお、できれば事前に「合併症」と「患者への説明と指導」(p.21～25)、「フェルトパッド付きスプリント材の準備」と「包帯の巻き方」(p.34～41)は通読していただきたいです。

また、実は整形外科医であっても外固定が不得意な人は多いです。本書はそのような人にも有用です。あなたが整形外科医であれば、全編を通読してください。自分が教わり常用する外固定と、本書が勧める外固定が違うかもしれないからです。

適切な外固定は、患者の痛みを軽減してADLを改善し、受傷部の安静を保ってその後の治療を助けます。救急の外固定でも、その影響は決して小さくないのです。本書が、受傷した患者の回復の一助になればと願っています。

2024年9月

JAかみつが厚生連 上都賀総合病院 整形外科  
高畑智嗣